



安全安心の自然環境に恵まれ
ピーエスピーシステム苗は
健全に育成されています。

TYLCV(トマト黄化葉巻ウイルス)と ピーエスピーシステム苗

黄化葉巻病対策について安心な実績

産地内での育苗は最も危険です!! 苗購入は大苗導入を避け、周辺に栽培地のない地域から購入しましょう。産地内において閉鎖型設備でも害虫の侵入が防げず、安全神話が崩壊しています。ピーエスピーシステムは安全な環境で育苗しています。また、設備については、出入り口が最も危険と考え、弊社は全ての施設にエアーオールを設け病害虫の進入を防いでいます。開閉部は全ての害虫進入を防ぐ網目の小さい防虫網を設置し、圃場周囲の捕虫調査ウイルス検定など定期的な予防検査を実地クリアしています。尚、第三者機関により安全性を実証され、追跡調査においても安全が確認されています。今後も、危険性の高い大苗育苗を行うこと無く、独自の閉鎖システムにより徹底予防を行い、安心安全な苗供給に努めます。

独自の閉鎖システムにより高い安全性を確保

ピーエスピー育成場周囲の環境

本州最西端の下関市豊浦町に位置し育成場周囲は鬼ヶ城、竜王山等自然の擁壁に囲まれ前方 2km 先は玄界灘です。育成場周辺に野菜指定産地は無く、苗育成地として病害虫等のリスクが少なく都合の良い環境です。対馬暖流の影響で冬は暖かく、夏は本州西海岸特有の西風等により比較的涼しい避暑地です。



野菜指定産地には
育成場周囲に
ありません。



シルバーリーフコナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病について

TYLCV を防ぐのは生産者ご自身です。

TYLCV : Tomato yellow leaf curl virus

トマト黄化葉巻ウィルス

タバココナジラミ類（シルバーリーフコナジラミ等）の媒介によって伝染します。アブラムシ類やアザミウマ類などはウィルスを媒介しません。また、管理作業で使用したハサミ、接触、種子、土壌などでは伝染しません。



虫について

成虫は体長0.8mm前後、翅は白く、体は淡黄色である。
幼虫（蛹）は扁平、黄色で、くびれがあることが多い。
1歳～4歳を経過後羽化して成虫になる。
卵期間は25℃で7日程度、羽化するまでは25℃で14日程度、成虫の寿命は25℃で1ヶ月程度。
雌は一生に200ヶ程度の卵を産みます。

発病の状態

成長点の新葉から葉緑が退色し、葉脈とそのまわりを残して、黄化してきます。大玉トマトの場合、葉が巻くことが多い。病状が進むと頂部が萎縮し節間が短くなります。



入れない 対策

- 大苗購入を避け、産地のない地域で育成した小苗を厳重な管理の下、二次育苗し定植する。本病の主な感染時期は育苗後期から定植直後といわれています。この時期の対策は特に重要です。
- 防虫ネットにより害虫の浸入を防止する。
- 出入り口は二重カーテン、エアーウォールを設け特に注意する。
- 施設周辺の除草など寄主植物になるものを除去する。

増やさない 対策

- 有効薬剤による体系防除を行い成虫を殺虫する。
- 発症株は速やかに抜き取り、土中に埋めるか袋に入れ焼却する。
- 野外の野良生えトマトは抜き取り、トマトの残さを放置しない。
- 収穫終了後は施設内の蒸しごみ、消毒により虫を死滅させる。
- 地域ぐるみの増加させない取り組みは最も効果的です。

将来的には多くのトマトはTYLCV耐病性品種になると思われるが、保毒性のタイプであり、ウィルスを消滅させるタイプではない為、植物体内のウィルス量が増えた時の発病は否めない。よって従来の非耐病性品種と同様の対策が必要であり、無防備な状態ではかえって被害を拡大させかねない。

お問い合わせ・ご注文は取扱店、又は育成元へお尋ねください。

PSP ピーエスピ一株式会社

山口県下関市豊浦町大字吉永526-1
〒759-6311 TEL083-774-3366 FAX083-774-2988
<http://www.pesp.co.jp>
e-mail ss-pesp@mtd.biglobe.ne.jp